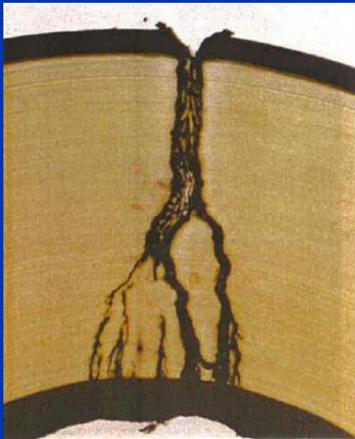


ケーブル事故点標定

絶縁破壊事故が発生したケーブルの事故点を、高圧ブリッジ（マーレーループ）による測定機器を用いて高精度で標定できます。また、この技術を用いて、シースの絶縁不良箇所を標定することもできます。

高圧ブリッジ（マーレーループ）による事故点標定

誤差 0.2~0.3%の高精度で事故点およびシース不良位置を標定できます。



ケーブルの絶縁破壊



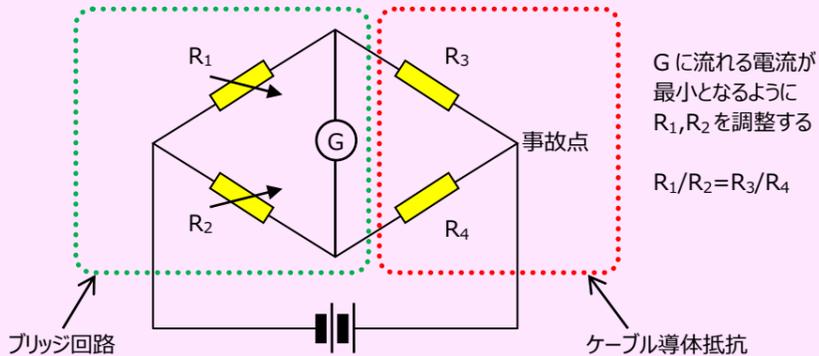
標準型

測定装置

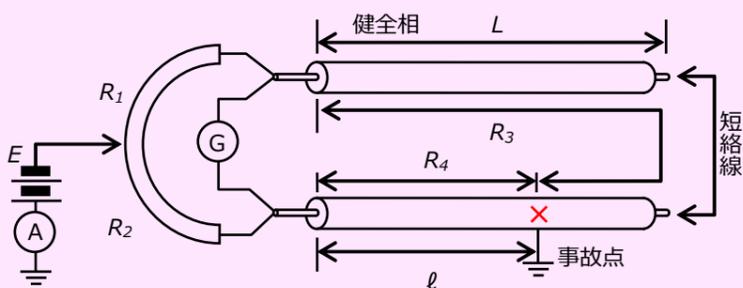


デジタル表示型

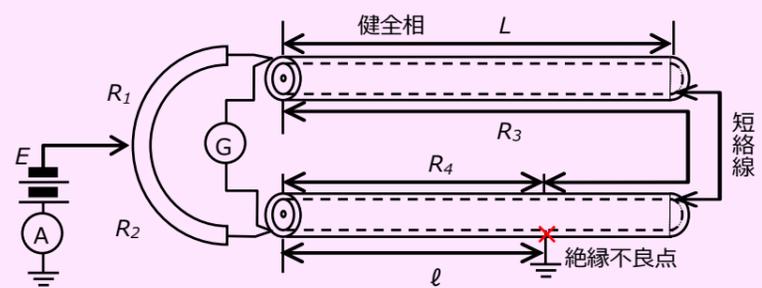
回路の原理（ホイートストーンブリッジ）



測定回路（絶縁破壊事故点標定）



測定回路（シース絶縁不良位置標定）



特長

- ・測定精度が高い（誤差 0.2~0.3%）。
- ・地絡事故、短絡事故の測定が容易。
- ・高抵抗地絡事故（10MΩ以上）も事故点の焼成効果により測定できる。
- ・高電圧露出部分が無いので、測定作業が安全。
- ・読み取った値に線路巨長を乗ずるだけで事故点までの距離が求められる。
- ・小型、軽量のため、フィールドでの測定が容易。